

同窓会20周年記念祝賀会盛大に挙

祝 大同工業大学同窓会20周年

21世紀を透視して、今我々は



11月1日・ホテルナゴヤキャッスル

記念式典

糸川英夫先生の 記念講演に魅了

記念式典では野村記念事業実行委員長の司会のもと、新美同窓会会長の挨拶に始まり、金谷理事長、藤原学長の祝辞へと続き、元同窓会会長、各支部長の表彰式を行った。記念講演では著名な組織工学研究所長 糸川英夫先生を招いて「これからの日本—21世紀の展望—」と題して我々にとって大参考になる話が行われた。糸川先生

大同工業大学同窓会「20周年記念祝賀会」が11月1日(日)午前10時よりホテルナゴヤキャッスルにて盛大に挙行された。大同学園からは金谷理事長をはじめ大江理事、鈴木理事ら、母校大同工業大学からは藤原学長、前田副学長、鶴野副学長、浅田名誉学長、井塚、石橋、尾崎各名誉教授および現職教員ら総勢120名が出席した。また、中部理工科系の同窓会会長および理事長のほとんどが出席するという中部地区の理工科系大同同窓会でもかつて経験したことのない来賓の参列が得られた。

天高 七 カ ン パ ス

大同工業大学
〒457 名古屋南区大同町2-21
TEL (052)612-6111(代)
編集 大同工業大学
企画 広報室

主な記事

- #### 同窓会20周年祝賀会挙
- 1面 建築学会講演会大成功
 - 2面 卒研訪問
 - 2面 創立50周年事業について
 - 3面 塑性加工学研究事情
 - 3面 交通キャンペーン

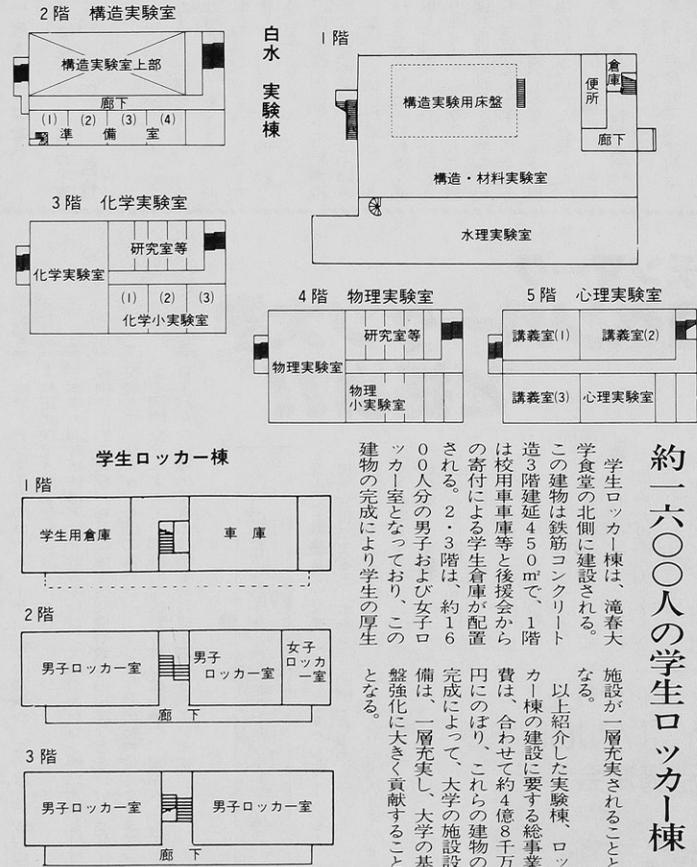
懇親会

マルチスライドで 大同今昔物語 「20年のあゆみ」

懇親会では元CBC女性アナウンサー 冠木さんの司会のもと、主催者側から園副会長の挨拶後、来賓からは前田副学長の挨拶に始まり、鳥居後援会会長、名古屋大学工学部新美同窓会会長、名城



大学理工学部同窓会会長の挨拶へと続き、愛知県知事名古屋市長の祝辞を本学同窓生、直江真議会議長が披露した。続いて来賓の皆様によって鏡割りが行われ、鶴野副学長の音頭で乾杯がなされた。乾杯後、BGMとして本学フランスバンド31名による生演奏が始まった。このころになるともう既に広い会場がいっぱいになり、30の各テーブルに約600名の参加者が歓談に花を咲かせていた。しばらく歓談、飲食をした後に、来賓が祝辞を述べた。続いて野村20周年記念事業実行委員長の謝辞により同窓会が始まって以来の大事業の幕を閉じた。祝賀会終了後、参加者は懐かしい仲間同士で二次会へとそれぞれ懇親会場を後にした。



着々進む建設計画

約一六〇〇人の学生ロッカー棟

大同図書館建設計画の一環として、今般設計画が推進されている新実験棟および学生ロッカー棟の建設については、昭和62年1月から計画検討が始まり、関係者の熱心かつ慎重な検討を経て、今年8月に起工の運びとなった。竣工は、実験棟が昭和63年3月末の予定、学生ロッカー棟が昭和62年12月2日に順調に完成した。

実験棟の概要は、鉄筋コンクリート造5階建て2540㎡の建物で、白水校舎の北側に建設される。東側道路への圧迫感と日影を考慮し、またキャンパスに最大限緑地を残すため内部の機能を充実させつつコンパクトでシブブルな建物のよう設計されている。

4階は、化学、物理学教室の実験室、研究室であり、大同校舎から移転することとなる。これによって、教養系各教室が、滝春・白水地区に集結することとなる。5階には、心理学教室の実験室、研究室、教職課程の研究室、さらに一般講義室が配置される。

以上紹介した実験棟、ロッカー棟の建設に要する総事業費は、合わせて約4億8千万円にのぼり、これらの建物の完成によって、大学の施設設備は、「一層充実し、大学の基盤強化に大きく貢献することとなる。



標として設計されている。1、2階を占める建設工学科の実験エリアは、吹き抜けの大空間を特徴とし、2階部分を研究準備室としている。実験ゾーンは、構造・材料・水理の3分野から成っており、天井走行クレーンを設置し、実験の利便をはかっている。地下に設けられる構造用実験ピットは、100t/㎡の荷重に耐えるよう設計されており、土木・建築のあらゆる構造実験が可能である。また、材料実験エリアは、恒温槽をはじめ電子顕微鏡等最新機器の設置が予定されている。また、水理実験室は、長さ35m×幅7.7m×高さ6mのスペースを有し、いずれもこの種の実験施設の中ではトップレベルの施設となっている。3、4階は、化学、物理学教室の実験室、研究室であり、大同校舎から移転することとなる。これによって、教養系各教室が、滝春・白水地区に集結することとなる。5階には、心理学教室の実験室、研究室、教職課程の研究室、さらに一般講義室が配置される。

春夏秋冬

十月七日は中秋の名月であった。夕刻を過ぎる頃、山の端を離れ、次第に明るさを増して昇り始めた月は、やがて雲一つない中天にその清澄な姿を見せた。久しぶりの感が強かった。英国の詩人シェリーは「月に寄す」詩の中で、この世を昇りゆく月に仮託して、「友なきさすらいの旅」と歌っている。地球という惑星から眺める月が如何様であれ、このころ人類による月着陸作業が行なわれ、月にはさつと安心し宇宙での孤高の旅を楽しんでいるに違いない。

では、月から見る我々の惑星はどのようにであろうか。かつてソビエトの宇宙飛行士は「地球は青かった」と飛行士から驚異的な報告を伝えてきた。

果たしてこの惑星は、今でもなお「青く輝き、明確にその存在が確認されている」のだろうか。そしていつまでもその存在を我々の惑星側から堂々と主張し続けることができるであろうか。

清らかな、そして美しい惑星にしておきたいと思つのは当然我々人類の切なる願ひである。それにしても、20世紀最高の知性と言われるフランスのポール・ウァレリーの所謂「方法的制約」なるものがはびこり、いつの間にか根拠が忘れ去られ、言いやすい現代においては特に、間違いを決して犯すことなく、常に根本に立ち返って、理想の炬火を高くかざし、より大切なものを生み出し、行く決意をし、かた固めたいものである。「原則的制約」を指して「一歩一歩着実に修練の道を進むのは、方法的前進と違つて決して華麗ではないが、やがてこれこそが、真に人間の価値を保証してくれるものとなるであろう。

'87就職

円高・低成長など、総体的には不況感の中でスタートした就職状況だが、工学系の求人は相変わらず強基調で、前年を上回る好状況だ。

就職が

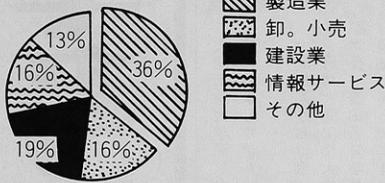
就職が

今年の就職戦線の中で、東京の六大学の或る学生が、A銀行に応募し内定をもらった。B銀行も応募し内定をもらった。最終的に、本人はB銀行に入社を決定した。その結果A銀行は、その大学の就職指導がよくないという理由で「来年度以降の応募を厳禁する」との連絡をしてきたという。

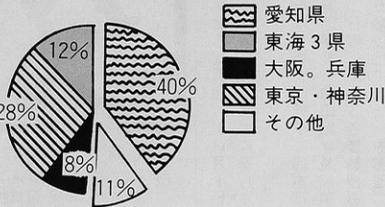
二つ内定の中で一方を選択した学生は、両銀行の優劣を比較したのではなく、単純な理由で決定したと思ふ。一方選択されなかった銀行としては単純なこととは考えなかつた。

最近 同時一企業応募を原則とする学内規定に対し、とうとう複数の会社に応募してはいけないのか、という不満を、学生や父兄から聞か、就職と同様に人生で大切な結婚において、同時一企業選択が

求人・職種別



求人・地域別



年々早まる活動開始時期

＝内定状況は昨年より1ヶ月先行＝

62年度

今年の就職協定は新方式によって試行された。第一段階の企業説明会は、愛知県下の場合、合同で実施されたが、参加学生は予想以上に少なかった。

第二段階の企業訪問開始は企業訪問選考(今年協定でも選考可としている)として十数日後に内定というケースが多かった。本学における就職活動も、円高不況の心配から、学生も昨年より活動が活発であり、昨年より、一ヶ月先行して進行した。

その中でも、内需拡大による建設ブームの影響で、建設工学科が昨年よりも、一・五ヶ月先行したことが、注目される。

62年度

求人状況

今年の求人状況は、十月十五日の集計によると、求人企業数 二、一三〇社
求人件数 八、一一七名
求人倍率 七・二倍
昨年(61年度)と比較すると、

求人企業数 一〇・五%増
求人総数 二・二%増
求人倍率 〇・八倍増となっている。

又、求人総数の内訳をみると、業種別では、社会状況を反映して、製造業は七%減少し、建設業は四%増加している。地域別にみると、愛知県が五%増加して、全体の四〇%を占めているのに対して、その他の東海三県(岐阜、静岡、三重)は、昨年対比で約一四%と大巾に減少している。

総対的には、今年不況感の中でスタートしたが、工学系の求人は、相変わらず、強い強基調であり、十月以降に追加求人が出てくるのを見ると、昨年とは逆の状況である。

OBの声

＝就職活動をふり返って＝

就職はなんたって人生を左右するターニングポイント。そこで先輩たちのアドバイスを聞いてみた。

目的意識をもつ

徳弘 和明
日立照明機



一度きりではない
豊橋市役所河川土木課
田口 哲也

私の場合、今まで学んで来た土木の知識を十分生かせるような職務を希望すると同時に、中途採用のない公務員を志し、市役所一本の絞りをしました。

就職活動に際しては、早い時期から自分自身の希望する分野を明確にしておき、就職指導室の資料などを参考にしたり、担当教員の方と相談したりして、とにかく多くの情報を収集して、その中から自分に合った企業を見つけていくことが望ましいと思う。そして、その企業で自分は、いつい何が必要かと思つておくことをしっかりと持つておくことが必要だと思う。

私の就職体験としては、卒業研究の担当教員の方の紹介によって現在の会社に応募したものであり、そんなに苦労したわけではなかった。一生を決める問題だから、よく考えて決断してほしい。(61年度電気工学科卒)



60年度建設工学科卒

昭和62年度国庫等補助金交付状況 (62.11.30現在)

補助金名	件数	補助金額 (千円)
私立学校施設整備補助金 (教育研究装置施設整備費)	1件	37,400
私立大学研究設備整備費等補助金 (研究設備等整備費)	1件	7,550
科学研究費補助金	6件	48,200
私立大学等経常費補助金特別補助 (情報処理)	1件	17,170
愛知県経常費補助金		862
合計		111,182

オレゴン大学 学生気質について

一般教養(外国語) 助教授 東 好男

オレゴン大学生の数は約1万7千人、男女比はほぼ同率、年齢層は日本と違い40才位の人でも学部、大学院の双方で学生として登録している者が相当数います。新入学生の多くは主として学生寮に入り、Week endは講義の準備テストの勉強、レポートの仕上げに追われて必死の様子です。特に週末前は図書館、学生ホール等は完全に占領され、懸命に勉強する様子は日本と同じです。学生の多くは自前の学費で勉学を続ける訳ですから、身につける衣類は質素でラフなものです。流

行に目をうはれることなく、自らの職業感と学業を直結させ、実に合理的とも言える学生生活を送っています。アメリカ社会では、自前から前に押しやり、自己を表現し他に印象付けることが子供の頃から教えられる為か、一人一人が個性的で、魅力的で、しかも時事的な社会問題についても一人の人格として堂々と人前で自己の主張を多弁的に確に話すのです。

アメリカの大学では各大学間で単位が相互に認定されているので、秋学期だけU of Oで学び、次の冬学期を別の大学に移る、といったことが可能でその為相当数の学生が大学間、下宿先等移動するようです。そして学びながら働かせ、働きながら学ぶ、という学生は多く、それが実体です。(後略)

デンマーク コペンハーゲン大学 と提携!!

●コペンハーゲン大学 ●1979年にデンマーク国王クリスチャン一世によって創立され、デンマーク最古の1970年に王室の管理から離れ、国立大学となった。創立以来4人のノーベル科学賞受賞者を輩出する名門校である。

学部は神学部、社会科学部、医学部、人文学部、理学部の5学部、学生数は男子15666人、女子11799人、教員は300人。

ノーベル化学賞受賞 HENRY TAUBE 教授 特別講演会

1983年度ノーベル化学賞を受賞したスタンフォード大学化学科教授 Henry Taube 教授が来日され、去る10月28日水には本学白水校舎にて、記念講演会が開催されました。

演題は「A Career in Chemistry Chance, Choice and Change」。

白水校舎は聴講生の熱気をほらみ、ノートにメモをとる姿も見られ、アカデミックな雰囲気には富んだ講演会となりました。

去る11月19日にコペンハーゲン大学のクラスウス・シェーファー学長が来学。本学の学生、教職員ら一五〇余名の聴衆を前に、デンマークのお国柄とコペンハーゲン大学の概要などを講演しました。提携が決定した欧州の大学とあって、熱心に聞き入る参加者の姿が印象的でした。

気候 1月(マイナス16度) 7月(15度)

コペンハーゲン大学 化学科教授来学

本学とデンマークのコペンハーゲン大学の提携が、このほど教授会により正式決定されました。

本学の海外研修はアメリカのオレゴン大学やオレゴン州立大学と姉妹校提携協約を結び、相互に留学生交換や教授の招聘などを行い、活発に交流していますが、今回のコペンハーゲン大学との提携は、ますます深まる国際交流によって、国際的な視野を持つ技術者や、国際人としてグローバルな活躍のできる技術者の育成が期待されています。

イメコン超高速撮影装置

＝多種多様な分野で威力を発揮＝

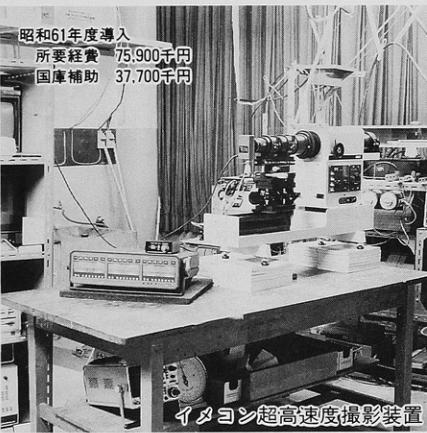
電気工学科 講師 関谷 昌久



本年 11 月末、文部省の昭和六十一年度私立大学研究施設整備費の補助を得て、イメコン超高速撮影装置(イメコン超高速カメラ)が導入されました。

この装置は、数百μsオーダーの超高速で変化する現象を顕微鏡撮影(一万倍)し、高速フィルム(1000mm)で撮影(1000mm)できる装置です。本学には既に、高速現象をmsオーダーまで時間分解可能な高速ビデオ装置が導入されています。今回のイメコン超高速撮影装置が導入されたことにより、nsオーダーの高速現象に対応できるシステムができたこととなります。本機の使用により、従来高速現象を画像して測定する手段がなかったために研究の進まなかった数多くの分野において、新たな進展が期待できます。

現在まで本装置は、次の様な利用がなされています。物体に衝撃荷重が作用する場合の動的応力を解析するため、高速に変化する応力の伝搬状態を非破壊的に可視化した様子の顕微鏡撮影。高電圧機器の絶縁耐力の向上および電圧集積装置およびソライサ等の気体放電を応用した機器の性能向上を目的とし、気体の絶縁破壊過程を把握するための本装置による絶縁破壊現象の撮影等に利用されています。



イメコン超高速撮影装置

昭和61年度導入 所要経費 75,900千円 国庫補助 37,700千円

昭和62年度導入 所要経費 75,000千円 国庫補助 36,650千円

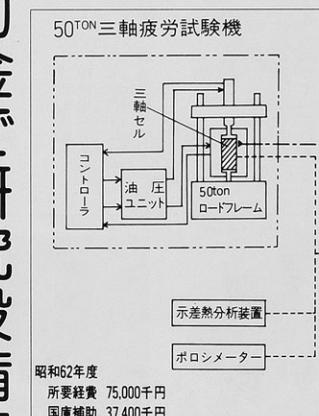
本学では研究の促進が教育に反映されるとの認識に立ち、研究設備の充実に努めています。特に大型設備については、毎年度、文部省の補助金を受け各学科に設置しています。補助対象装置である研究装置は、教授、助教その他の研究に従事する職員が職務として行う学術の基本的研究に必要な機械、器具、その他の設備であり、文部省の補助採択基準は①研究課題との関連で当該設備の必要性が高く、その設備を導入することにより研究の進展が期待できるものであること、②価格が4千万円以上のものであることと定められています。本学では昭和六十年度から連続して文部省からの補助金を受けています。この補助金は他大学からの申込みも多く、研究スタッフ、研究内容が審査の対象となることから、3年連続して採択されたことは喜ばしい出来事です。大型設備と研究の概要をお知らせします。

昭和61年度導入 所要経費 75,900千円 国庫補助 37,700千円

昭和62年度 所要経費 75,000千円 国庫補助 36,650千円

補助金で研究設備充実

二十二世紀ビジョンの中心テーマである宇宙航空技術や、さらに高度化が要求されるエレクトロニクス、自動車機器、建設用材料などにおいて、その基盤となるファイバセラムックスをはじめとした新材料の開発が急務とされている。本学においてはファイバセラムックス技術のうちで構造用材料として最も重要な課題である炭化けい素を主体とする高性能複合材料や、焼結性、反応性に優れた超微粉の製造法についての研究が行われていること、半導体材料、超強張り鋼、Vプロセス鋳造法、切削メカニズム研究などに取り組んでいる。これらの新材料や各種プロセスの幾多の課題をクロック



この設備は六二年度の文部省大型設備補助に申請し、採択された設備であり、三軸疲労試験機、X線回折装置、走査型電子顕微鏡、防水型超音波探傷器、ポロメーター、その他付属装置で構成されている。それぞれの装置は単独にも使用することが出来るようになっている。



電子プローブマイクロアナライザ装置

大型設備導入

電子プローブマイクロアナライザ装置

＝最近の研究＝

機械工学科 教授 酒井 義文



に分析し、かつ微視的性状を総合的に解明するために、非常に高性能な本装置が設置された。(七号館一階) 現在、多くの研究室の方々に利用して戴いており、本装置の威力を十分に發揮しつ、ある。

マイクロ解析装置

＝建設材料の疲労特性の解析＝

建設工学科土木工学専攻 助教授 桑山 忠

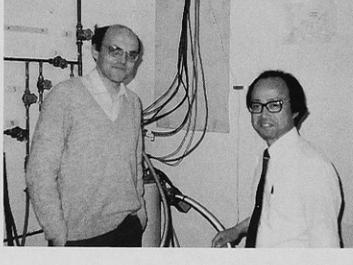


海洋における長大橋の舗装は橋面の振動・たわみなどに対応できる材料の使用が要求される。また、臨海部の埋め立てにはセメント、石炭、スラグあるいは化学的固結材などによって土質改良が避けられない。一方、ミクロ観測機器の発展はこのような材料の強度発現の微視的解明を可能にしている。

前略、お変わりありませんか。当方、Nottinghamでの生活も早や一ヶ月が過ぎようとしています。当地の気候と生活に少しずつ慣れてゆく感じを受けますが、毎日がつまづくことと連続です。(中略) 私のここで研究内容にふれてみたいと思います。私の師事するJ. Eagles教授はM. B. E. (Molecular Beam Epitaxy) グループのチーフでGaAs系の多層半導体薄膜の物性を研究する若い学者です。この教授の若い学生、postdoctor、大学生、それに私と同様な立場の外国人研究者(フランスより1人、5月から)はオーストラリアから1人も、今世界中で最も注目されました。更にスタートの話題の一つ、高温超伝導体の研究を3月下旬から始めた導遷移温度(TC)がと聞かされ、意外な感じを受け、液体窒素の沸点(77K)けると同時に大変興味を覚えました。より高い超伝導材料。

高温超伝導体研究に興奮

応用電子工学科 助教授 岩間 三郎



Department of Physics The University of Nottingham 岩間 三郎

末筆になりましたが、大同工大の皆様によくお伝え下さいますようお願い申し上げます。 草々

カリキュラム等検討委員会報告②

ブレインストーミング方式でユニークな論点展開

教務部長 田中 保

カリキュラム等検討委員会は、引き続き月二回のペースで精力的に討議を重ねるべく、前報にも述べたように、開学以来二十余年の経験と実績を踏まえ、一大飛躍を目指しつつある本学において、「カリキュラムと教育の基本問題」を検討するのが、本委員会設置の所以である。この立場から、五月二十六日の委員会において、当面議事の進め方について、以下の様に定めた。すなわち直ちに具体的なカリキュラム改編の審議には先立って、カリキュラム問題に限ることなく、広く大学教育に関する諸問題にわたってブレインストーミング方式で各委員から自由に意見を述べ、それを話題にして



カリキュラムの改編は、この大学でも、しばしば行われることであるが、そのほとんどが、問題部分の手直し、あるいは大学設置基準を出发点にして卒業に必要な単位数を各領域に割り当て、その開講年次等を定める際に提起されている問題点を考慮するといった範囲に止まっている。前記の通り、本委員会では、深い考察にもとづくユニークな論点を展開して戴いて、審議時間を延長してもなかなか論議が終わらないこともしばしばである。 さて本委員会が審議を開始した直後、委員長から専任委員をお願いして委員会に提出した「課程編成上の文献資料」のなかで、とくに、M・トローウ「高学歴社会の大学」(UP選書、東大出版、一九七六)

D・リースマン「高等教育論」(玉川出版、一九八〇)の二著者の内容は、その後の各委員の発言のなかで、しばしば引用され、議論を呼んだ有益なものであった。 ここでは紙面の関係で、トローウの著書の訳者である天野・喜多村両氏が同書の解説に書かれていることから、その引用に止める。トローウの最も有名な業績は、高等教育制度の発展過程を(エリート)、(マス)、(ユニバーサル)の三段階に区分し、それぞれの段階の高等教育制度の構造的な特性を説明する理論と分析の視点を提出し、現代社会が直面する教育上の矛盾や問題の解明に大きな貢献をなした点にある。ここで、筆者の一人、喜多村氏が前記三つの高等教育発展段階の特徴をトローウに従って図示した表を記載したのであるが、紙面残り少なく、不可能である。もし関心のある方は、教務課に資料の残部があるのでお申し出下さい。

を作り上げてしまったと聞き、その熱意と馬力に驚かされた。しかし、これはまだ人の後追いの段階です。この物質は粉末を原料とし、最終的に焼結によって単結晶を得るという事から、私のこれまでの研究との関わりも深く、参画するのに適したテーマと考えられます。教授もその点での私の協力を希望すると共に、更にその先の問題を手掛けることを強く勧めておりました。(中略)

現在、そのための情報収集と、実験装置の扱いを覚える見習い期間です。日本を発つ前に、TCの高い酸化物質の超伝導体が作られたという新聞記事を見た分野のトピックスとして読んで、このことが思い出され、こんなhotな畑に、野次馬であるにせよ足を踏み入れることが出来るこの興奮を直接お伝え出来ないのが残念です。(いささかキザな言い方になりました)

講演会「これからの建築文化を語る」

日本建築学会展示会 ＝大成功に終る＝

日本建築学会では、毎年全国の大学・高専の卒業設計の代表作品を集め、巡回展を開催している。

東海地方では、建築学科を有する九大学・高専が輪番制で幹事校を受け持っている。今年、本学が、幹事校となり、展示会が十月二十九日、三十一日にかけて盛り上げられた。講演会「これからの建築文化を語る」が、大同工業大学主催で開かれ、東海地方はもとより、遠くは大阪からもこの講演会を開きに来る人もこの程の盛況であった。

建設工学科主催による講演会は、「これからの建築文化」というテーマで行なわれた。

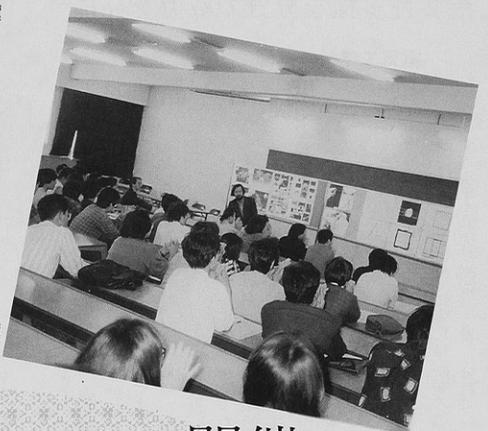
東海地区在住の新進建築家に、卒業設計の作品を題材として様々な感想を語ってもらい、盛況の中、幕を閉じた。

一見、良く見受けられるような講演会がこのように好評であったのは、幾つかの要因が考えられる。

一つは、従来のこうした講演会が名古屋で開催される場合、東京の著名な建築家を講師として呼ぶパターンが一般的であるのに対し、今回の講演者達が地元建築家であったこと二つ目に、名古屋圏を代表する新進気鋭の先生方があったこと、三つ目に、講演会のテーマが「建築文化」としてあり技術的な切り口でもなく、建築が近代以前に持っていた文化面を正面から語り合おうとする姿勢があったことなどが挙げられる。

なお、講演会終了後、懇親会が催され、講師の先生方を始め、周辺の学生及び計画系のある新建築を始め数社のジャーナリスト等が集まり、再び盛んな議論が展開された。

この議論の中から、こうした会を持続してもらいたいとの希望が出され、出席した諸大学の先生方で検討していくこととなり、新建築社の方も積極的に後援してくれることとなった。



電気関係学会 東海支部連合大会 開催

昭和六十二年度電気関係学会東海支部連合大会(電気学会、電子情報通信学会、照明学会、テレビジョン学会、日本音響学会各東海支部、情報処理学会中部支部)は十月二日、三日の両日にならって本学で開催された。

この大会は静岡、長野、愛知、岐阜、三重の工学部電気系学科を有する大学が輪番制で幹事校となり、毎年秋期に開催されている。参加対象者は主に東海地方の大学、企業の電気関係、情報関係の研究者を始め、各事業所等の関係者、各大学の学生まで、広範囲の研究領域にわたっている。

本年は十年ぶりに本学が幹事校となり、電気工学科、応用電子工学科の教職員が会場を準備し、本学の滝春、白水両校舎の全教室を使用して実施された。

発表講演はシンポジウム三件、一般講演六〇件の多きを数え、二日、三日両日の参加者は延べ九〇〇人を越えた。二日の午後の後半には本学藤原学長による特別講演「鉄鋼の話」がなされた。日頃鉄鋼にはなじみのないが、電気関係者も、学長のわかりやすい話にメモを取ったりうなずいたり、形状記憶合金の実演にいたっては目を見張る人も多かった。

その夕刻、金谷学園理事長の挨拶で始まった懇親会には一五〇名以上参加し、滝春の学生ホールは熱気にあふれて大会第一日は終了した。

大会二日目は好天にめぐまれ、午後五時過ぎにはすべてのセッションを終了し、大会は無事閉幕した。

なお来年度の本大会は中部大学で開催される。

今年も本学が 幹事校

研究テーマは「光弾性実験方法及び有限要素法による応力拡大係数解析」という難しいもの。わかりやすくいうと機械や構造物に対する歪みの反響に対する研究である。

卒業研究に突入してからは毎日7、8時間は研究室にこもりつきり、「コンピュータ」の前でデータ処理をして夏休みも大方は学校にきてました。

卒研訪

「大学が本学を所以のひとつ、卒業研究は四年間の本生活の集大成。その卒研に取り組みむ四年生の姿を紹介しよう。」

和田研究室 84M175
平川隆裕



父兄の声から 後援会地方懇談会 によせて

地方懇談会 静岡支部 刑部 孝光

私達の静岡支部懇談会は長かった梅雨も明け夏も盛りの七月十六日ランドホテル浜松で開催されました。

後援会より副会長を始め大学当局からも大勢の先生に出席して頂き、また、父兄の方々と教育熱心な方が多く、六十六名の方が出席されました。

現在に至る迄の説明や、これからの様に進んでいくか、最近の学生のレベルが上マて研究発表、学生の発表は少ないなかにあって、好評をうける。卒研テーマは、BierT系統結晶熱電素子の特性。大同特殊鋼の熱電材料を使用して実験とデータで考察し、より高製品化への研究といえようか。まさに産学協同の研究である。

石川研究室は7人の卒研究生がいます。「みんな熱心で、フアイトにあふれ、アカデミックな雰囲気です。」

建設工学科 土木工学専攻 久保田研究室 84C033
中上伸午

「もう、ほとんど毎日、パソコンいじり」という程、データの打ち込みも過ぎる。卒研テーマは、美河川における縦断の不規則性について。これは川の凹凸をひとつの式に表現しようとするものであり、洪水時などでの不等流計算をする際に必ず必要となる基礎的研究。

四国地区懇談会 土居 謙一

四国地区懇談会は、グランドホテル徳島で開催され、出席させて頂きました。近年益々厳しい環境の折、私共父兄は、我子供達の学生生活を想う時、他に余り類を見ない大

「建築形態って風土・生活様式ばかりでなく、コスモロジーなどによって決定されていると思うのです。こうした新しい切り口を見つけていきたいですね。」

著名な建築家の講演に出かけた。先輩たちと旅行したり、建築探究のために外部への働きかけも積極的である。毎週一日はゼミが開かれて、前期は設計コンペに参加するために、六人の研究生間でテーマをぶつかけあって、何回も討議がくりかえされたという。卒研のテーマは、そんな中で自分の興味のあるものをお互いそれぞれチョイスしたのです。建築学会東海支部のコンペにも参加し、みごと入賞。卒研はやはり四年間の集大成ですね。」

研究テーマは「光弾性実験方法及び有限要素法による応力拡大係数解析」という難しいもの。わかりやすくいうと機械や構造物に対する歪みの反響に対する研究である。

卒業研究に突入してからは毎日7、8時間は研究室にこもりつきり、「コンピュータ」の前でデータ処理をして夏休みも大方は学校にきてました。

電気工学科 石川研究室 84E037
落合崇央

アカデミックな雰囲気です

元気！元気！
4年間の集大成に打ち込む

「もう、ほとんど毎日、パソコンいじり」という程、データの打ち込みも過ぎる。卒研テーマは、美河川における縦断の不規則性について。これは川の凹凸をひとつの式に表現しようとするものであり、洪水時などでの不等流計算をする際に必ず必要となる基礎的研究。

建設工学科 建築学専攻 笠嶋研究室 84A059
村上嘉浩

学会コンペにも参加

卒研テーマは「住居における形態と地域性に関する研究」幅広く、それでいて奥深いテーマだから、しほり込みが難しいんです。」

昭和64年は大同学園創立50周年



昭和54年に挙行された学園創立40周年記念式典

成功させたい 創立50周年記念事業

昭和一四年に、大同製鋼現
大同特殊鋼によって、産業技
術者の養成をめざし、財団
法人大同工業教育財団が設立
され、大同工業学校が設置さ
れて以来、当学園は昭和四
年に五〇周年を迎えること
になります。人生五〇年とい
え、折り返し点を過ぎた熱年

大学へと二貫した工業教育を
行うに至り、地域社会、産業
社会に貢献してまいりました。従
って、六四年は、大学の創立
二五周年でもある記念すべき
年であり、当学園は、この
五〇周年を一つの節目とし
、さらに将来に巨匠の発展の礎と
するため、五〇周年記念事業
を行うことになりました。こ
の内容については、五〇周年
記念事業委員会を設置し、そ
で具体化してまいります。
その大綱は次のとおりです。

- (一) 大学図書館の建設
 - (二) 高校知多分校舎の改築(鉄筋)
 - (三) 高校実験・実習機器の現代化
- なお、大学院設置も重要な課題です。これらの事業の円滑な推進を期するため、寄付金の募集を行います。目標額使途、期間、減税措置等は、今後、委員会が詰めていくことになり、委員の皆様が、皆様の理解とご協力を願います。

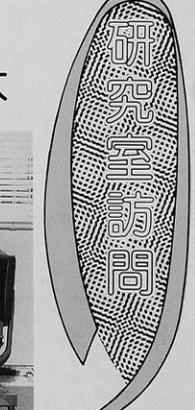
まず、教育界を取り巻く環境が大きく変わろうとしております。一八才人口の急増から急減への転換、産業構造の高度化と技術革新の進展、国家財政再建課題からの私学助成の抑制等々、こうした環境変化の中にあつて、臨教審答申にみられるように、教育の個性化、生涯学習ニーズ、変化への対応といった教育改革の要請は一段と高まっています。本学園としても、環境変化を十分見極め、教育の質的充実と魅力ある学園づくりを推進し、工業教育と工学研究を通じて、社会のニーズと期待に応えていかねばなりません。五〇周年記念事業もそのプロセスの一つの節目として、是非成功させたいものです。

私の担当は一般教育の経済学。滝春校舎五号館三階の研究室は、専門科目の先生方の部屋とはまるで違ふ。機械設備の類は全く無く、八段四連の書棚が片面の壁を覆っている。細分化が進んでいる経済学研究の私の専門分野は、独占・寡占問題を中心とした理論研究。しかし書棚には年代物の学説史の本から現代経済論、産業論、企業論、技術論、経営学、会計学、果てはハウ・ツー物に近い雑記本の類まで多種多様な本が押し込められている。色とりどりの本を収集するのが私の趣味。

な方向への発展を約束するものといふことができよう。また、これらの新技術の波及効果は電力工学などの関連分野にとどまらずメカトロニクスなどの他分野へも広く浸透しつつある。このように機械工学よりやや遅れて発展はじめた電気工学は、その後における加速度的な進歩によってその存在意義はいちじるしく増大したといえます。

このような事情に対処すべく当学科では電力・電子の二コースを設けて教育の充実をはかってきたが、昭和六十年からは応用電子工学科を発展的に分離発足させた。しかし、両学科のその後も一体の運営を続け、教育・研究面の一層の充実を期している。電気工学の二コース制は廃止されたが、従来の電力コースだけを残したのではなく、カリキュラム改訂によってより自由度の大きい科目選択が可能になった。たゞ情報は情報処理・電子工学・電子回路・自動制御・通信工学などの科目は従来通りカリキュラムに含まれている。

電気工学の電子系の教授陣の一部は応用電子工学科に移ったが、今年度から通信工学担当の筆者が着任し、明年度にはそれぞれプラズマ工学、電子顕微鏡学、制御工学の分野で優れた研究成果を挙げよう。このように当学科では電力系・電子系を問わず今後ますます教育・研究面で充実をはかることを期している。人材を多数世に送り出すことを期している。



電気工学科
教授
松原正一

学術

今年八月下旬、第一回塑性加工国際会議が西ドイツのシュツットガルト大学を会場にして開催された。塑性加工という名称にはなじみの薄い方もあるかもしれないが、圧延とか鍛造あるいはプレス加工などがそれに含まれる。ええ、大体わかつて頂けると思ふ。この会議には三十ヶ国から四百五十名に及ぶ参加者があり、日本からは七十名の大勢が出席した。そもそもこの会議は三年前に東京で初めて開かれたもので、それまでは分野の違ういくつかの学会(一部門としてそれそれ会議を持っていた。十数年前から塑性加工

塑性加工学研究事情

材料科学技術研究所教授 戸澤康壽

たいてい伸ばして品物を作るといふ塑性加工の技術は、すでに紀元前の青銅器時代や鉄器時代における武器・装身具・硬貨の製造に見られるのであるが、生産方式の一つとして確立したのはかならずしも塑性加工の技術が、特に塑性加工の重要性が認識されるようになったのは、第二次産業革命が起りアメリカでオートモービルが自動車工業において大成功を収めて以来であるから、まだ百年にもなっていない。わが国の状況はというと、戦時中まではほとんどが軍関係に限られ、決して広く利用されてきたとは云えない。しかし終戦後は、資源に乏しいわが国としては輸入素材を付

たいてい伸ばして品物を作るといふ塑性加工の技術は、すでに紀元前の青銅器時代や鉄器時代における武器・装身具・硬貨の製造に見られるのであるが、生産方式の一つとして確立したのはかならずしも塑性加工の技術が、特に塑性加工の重要性が認識されるようになったのは、第二次産業革命が起りアメリカでオートモービルが自動車工業において大成功を収めて以来であるから、まだ百年にもなっていない。わが国の状況はというと、戦時中まではほとんどが軍関係に限られ、決して広く利用されてきたとは云えない。しかし終戦後は、資源に乏しいわが国としては輸入素材を付

和田均
機械工学科講師
学位取得

和田均(機械工学科)講師は今度、これまで約10年間行ってきた線形破壊力学に関する研究結果をまとめた「き裂を持つ部材の静的および動的強度に関する研究」と題した論文を名古屋大学に提出し、八月三日付にて工学博士の学位を授与されました。

超電導材料研究の進歩で
新分野への発展

られた時期であり、それは来るべき二十一世紀に向けてさらに加速されつつある。また、ごく最近における超電導材料研究の急速な進歩は電気工学の諸分野における革新と新たな



電気工学科
教授
松原正一

昭和62年度役職者

学 長 藤原達雄	副学長 教授 前田利男	副学長 教授 鶴野達二	事務局長 齋藤正太郎	教務部長 機械工学科教授 田中保	学生部長 建設工学科教授 三瀬 貞
図書館長 電氣工学科教授 川井栄一	就職指導部長 機械工学科教授 酒井義文	機械工学科主任 教授 若林嘉一郎	電氣工学科主任 教授 松原正一	建設工学科主任 教授 成田壽一郎	応用電子工学科主任 教授 岡部隆博
一般教養主任 教授 榎 友彦	教授課程主任 教授 櫻林 仁	情報処理センター所長 電氣工学科教授 佐土根範次	材料科学技術研究所長 応用電子工学科教授 石川太郎	工作実験実習室長 機械工学科助教授 星野克英	国際交流委員長 建設工学科助教授 山口壽男

クラブ訪問



部昇格を果たした。チームは毎年確実に力をつけ昭和六十年秋には、三部リーグ優勝、二部昇格となり、現在に至っています。

昭和五十四年には三名だった部員も現在は十三名(五名女子)までとなり、中学、高校ときびしい練習を重ねてきた者から、ほとんど初心者のような者まで、部員の構成は体育系の運動部とは異なっており、独特の雰囲気を作り出しています。そしてバレーボールを通して技術ばかりではなく、人と人のつながりを大切にするためのチームワークというものが、集団の中で個人が果たす役割と位置とは、いろいろなものがある。一人一人が見出して、いずれ社会に出た時に少しでも役立つようにと心身共に鍛えています。

我が部のなごりの特色は、昭和五十五年春より、本学唯一の寮生活を送っていること、自分達でルールを作り規律正しい寮生活の中から、チームワークの大切さを学び、対人関係をよりよいものにする事で、チーム力も向上していると思えます。

我が部の目標は一部リーグに昇格し東海リーグを制すること、そしていずれは全日本大会に優勝すること、そして、先輩方が築き上げてきたものを大切に、さらに磨きをかけて、努力していきたいと思っています。

今、学内で、もっとも活動的で注目されているバレーボール部が、よろしくお願ひします。

バレーボール部 今、注目の的

バレーボール部は、大学創立と同時に創部され、東海大学バレーボールリーグ三部において、昭和三十九年度に春秋連続優勝を挙げたが、その後、きびしい練習を重ねてきた者から、ほとんど初心者のような者まで、部員の構成は体育系の運動部とは異なっており、独特の雰囲気を作り出しています。そしてバレーボールを通して技術ばかりではなく、人と人のつながりを大切にするためのチームワークというものが、集団の中で個人が果たす役割と位置とは、いろいろなものがある。一人一人が見出して、いずれ社会に出た時に少しでも役立つようにと心身共に鍛えています。

我が部のなごりの特色は、昭和五十五年春より、本学唯一の寮生活を送っていること、自分達でルールを作り規律正しい寮生活の中から、チームワークの大切さを学び、対人関係をよりよいものにする事で、チーム力も向上していると思えます。

我が部の目標は一部リーグに昇格し東海リーグを制すること、そしていずれは全日本大会に優勝すること、そして、先輩方が築き上げてきたものを大切に、さらに磨きをかけて、努力していきたいと思っています。

今、学内で、もっとも活動的で注目されているバレーボール部が、よろしくお願ひします。

がんばれ クラブ

成績発表

パワフルフティング

第一回全国選抜社会人学生対抗パワフルフティング選手権大会が7月5日に開催。全国各地から選ばれたアマチュア社会人二十一人と今年度の全日本学生パワフルフティング選手権で優秀な成績を残した大学生十三人が出場。52級から90級の八階級に分かれ、ベンチプレス、クワッド、デッドリフトの三種目総合重量で対抗戦を行った。52級の個人記録で、84M02井戸尚吾君が、総合重量400.0をマーク、大学生新記録を樹立。会場をわかせました。

硬式野球

遅まなから、昨年10月に硬式野球部が充足、青柳晋一主将の下に20人の部員、4人の女子マネージャーを擁する新進気鋭のクラブ。愛知大学野球リーグ戦をめざし、夏休みには高山にて合宿練習をするなど万全の体制で秋季リーグにのぞみまし。結果は8勝3敗1分で惜しくも第2位の成績でした。しかしながら、優勝した名市大に勝利点をあげることが出来、来季の春季リーグ戦に期待が出来る初出場ぶりでした。

学内 交通安全キャンペーン

標語募集に多数の優秀作

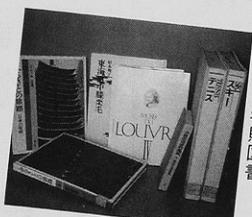
愛知県下における交通事故発生が急増している昨今、ウースト1号上、「非常事態宣言」等緊急通達を耳にする中、本学では教職員及び学生による交通安全対策キャンペーンを実施中。主な内容は、①学内掲示による呼び掛け、②印刷物配布、③保護者への協力要請、④指導教員による学生指導の徹底、⑤安全標語募集による意識の高揚、⑥講演会による啓蒙、⑦交通安全標語募集、⑧交通安全標語コンテスト、⑨交通安全標語コンテスト、⑩交通安全標語コンテスト、⑪交通安全標語コンテスト、⑫交通安全標語コンテスト、⑬交通安全標語コンテスト、⑭交通安全標語コンテスト、⑮交通安全標語コンテスト、⑯交通安全標語コンテスト、⑰交通安全標語コンテスト、⑱交通安全標語コンテスト、⑲交通安全標語コンテスト、⑳交通安全標語コンテスト、㉑交通安全標語コンテスト、㉒交通安全標語コンテスト、㉓交通安全標語コンテスト、㉔交通安全標語コンテスト、㉕交通安全標語コンテスト、㉖交通安全標語コンテスト、㉗交通安全標語コンテスト、㉘交通安全標語コンテスト、㉙交通安全標語コンテスト、㉚交通安全標語コンテスト、㉛交通安全標語コンテスト、㉜交通安全標語コンテスト、㉝交通安全標語コンテスト、㉞交通安全標語コンテスト、㉟交通安全標語コンテスト、㊱交通安全標語コンテスト、㊲交通安全標語コンテスト、㊳交通安全標語コンテスト、㊴交通安全標語コンテスト、㊵交通安全標語コンテスト、㊶交通安全標語コンテスト、㊷交通安全標語コンテスト、㊸交通安全標語コンテスト、㊹交通安全標語コンテスト、㊺交通安全標語コンテスト、㊻交通安全標語コンテスト、㊼交通安全標語コンテスト、㊽交通安全標語コンテスト、㊾交通安全標語コンテスト、㊿交通安全標語コンテスト。

掲示板 大学から学生へ

教務課

●後援会寄贈図書
○12月5日(日) 休講日(推薦)
○12月5日(日) 休講日(推薦)
○12月19日(日) 休講日(特別奨学生試験日)
○12月21日(月) 振替土曜授業日
○12月22日(火) 25日(金) 冬季補講期間
12月21日(月)は、平常の土曜授業の講義が行なわれまので留意して遺漏のないようにして下さい。

●転学科(転系・転専攻)
当該学科より他学科に転学科を希望する者は、審査の結果により許可されます。
(申込期間)
○昭和63年2月26日(金)～3月10日(木)
●研究生・聴講生
卒業後、特定の専門事項について研究を希望する者、特定の授業科目(教職課程科目等)の聴講を希望する者は、所定の書類および検定料を添えて願ひ出して下さい。
(申込期間)
○昭和63年2月26日(金)～3月14日(月)
詳しくは、教務課までお尋ね下さい。



後援会寄贈図書

●購入希望図書の申込み
図書館に備えて欲しい図書は、「購入希望図書申込書」を提出して下さい。購入状況は掲示してまいります。
●他大学の図書館利用
希望する図書がない場合は、他大学の図書館に行き、資料の閲覧・複写等を申込むことができます。大学によっては、紹介状等が必要な場合もありますので、館員に申出ください。また、図書館より、雑誌論文等のコピーを取寄せることができます。



学生課

●原稿を募集
発行は毎年4月の予定、次号は5号です。
利用者からの積極的な意見を歓迎します。
四年生も卒業を前に、ひと詳しくは、館員まで。

●情報処理センター
学生の皆さん、情報処理センターのコンピュータを活用して、業務処理を行なう時の論理的な思考(アルゴリズム)の方法は理解できますか?

●学生ロッカー室新築移転
現在滝春寮客室正門の左側にある学生ロッカー室が、新図書館建設に伴い、移転することにになりました。移転先は、学生ホール棟北側に新築された学生ロッカー棟の、2・3階です。
ロッカーの移転は諸君の冬期休業中に行ないます。諸君が現在使用中のロッカーを移動させるため、諸君は掲示による通知に従って中の荷物を全部出して下さい。これは諸君の荷物の紛失破損を避けるため、ロッカーの中身が当る

●就職指導課
就職先を考えたければならぬ。自分自身の目標をしっかりと固めておいてもらいたい。三年次生は、来年四月には就職先を考えたければならぬ。自分自身の目標をしっかりと固めておいてもらいたい。三年次生は、来年四月には就職先を考えたければならぬ。自分自身の目標をしっかりと固めておいてもらいたい。

●編集後記
本学では、現在図書館建設の一環として、将来の工学教育の多様化のニーズに対応できる施設として実験棟を、また、厚生施設の一層の充実をはかるため、ロッカー棟を建設している。これらの建物の完成によって、大学の基盤を強化し、二十世紀に向けて、誇りを持って前進しなければならぬ。皆様より玉稿を寄せいただき感謝いたします。